

インドネシア共和国 スラバヤ日本人学校 (Sekolah Japang SURABAYA)

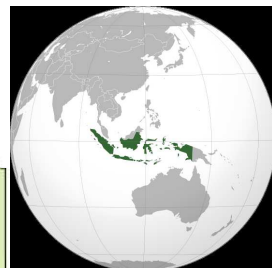
富良野市立扇山小学校

教諭 田畑 幹夫

(派遣期間 2008年4月～2011年3月)

1. インドネシア (スラバヤ) に関して

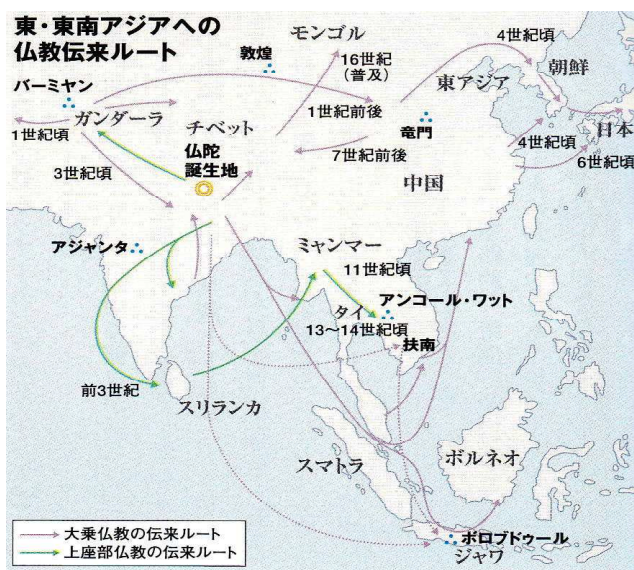
◆地理



インドネシアは、赤道直下に位置する群島国である。東西の幅は5,110kmで、米国ほどである。島の数は約18,000と言われており、その数は世界一である。ちなみに日本は約6800、フィリピンは約7100である。

日本と同様、プレート同士がぶつかる海溝が近くにあり、活火山が多く、地震も多い。近年は、ポロブドゥール遺跡近くのムラピ山の噴火やスマトラ島沖の地震が世界的なニュースとなった。

◆歴史



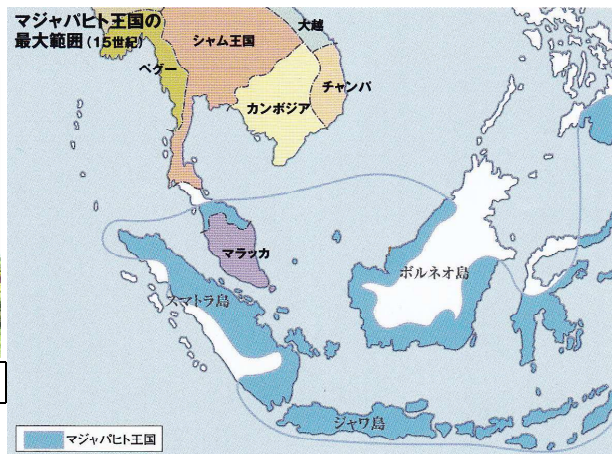
紀元前1世紀以降、インド貿易商人によりヒンズー文化の影響を受けるようになった。5世紀にはスマトラを中心に仏教国「スリヴィジャヤ王国」、ジャワを中心にヒンズー教国「マタラム王国」が誕生。8世紀には「シャイレンドラ王国」のポロブドゥール寺院が建立された。

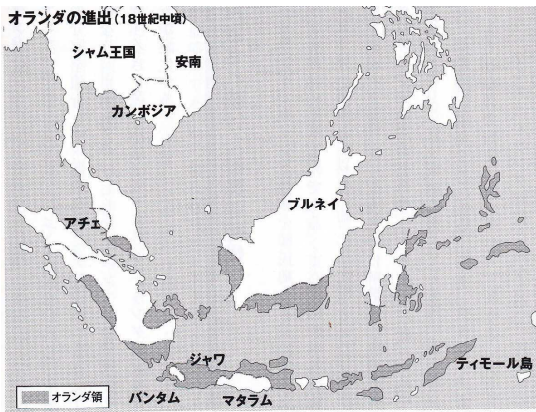
14世紀には、ヒンズー教国「マジャパヒト王国」が台頭し、インドネシア全域とマレー半島の一部を支配した。一方、スマトラ島北部にイスラム教が伝わり、「イスラム小国家」が誕生。やがて、イスラム商人の活躍によって各地にイスラム教が広がっていった。



世界遺産 ポロブドゥール遺跡

マジャパヒト王国の寺院





16世紀には、香辛料貿易の利を求め、オランダが侵入。1602年東インド会社設立以来、オランダによる支配は360年間続いた。その支配に対する反乱は激しさを増し、スカルノらにより国民党が結成され独立運動が始まる。1942年、第2次世界大戦で日本軍が占領することとなった。日本敗戦の2日後、1945年8月17日（現在の独立記念日）にインドネシアの独立が宣言された。再植民地化をねらうオランダは武力で制圧しようとしたが、元日本兵900名がインドネシア軍に参加して独立のために戦い、約500名が戦死または行方不明となったと伝えられる。それから5年の歳月を経た1950年にインドネシアは完全に独立を達成した。

その後、スカルノ大統領は、国連から脱退するなど、独裁主義的政治を歩むこととなる。反乱の鎮圧を繰り返し、経済は社会主義化へ進むが、1965年にクーデター「9.30事件」が起こり、スカルノは大統領職を剥奪される。1968年、スハルト政権となり、先進国の投資や援助を生かした経済開発を急速に進めるが、政府幹部・高官の汚職や腐敗が広がってしまう。1997年のアジア通貨危機では、ルピアが急落したが、その後の経済は、好調な民間消費や輸出に支えられ回復している。

◆国旗

1945年の独立時に制定された。赤と白は13世紀末の発祥と言われる伝統的な国民色で、白色は潔白、赤色は勇気を表わし、潔白の上に立つ勇氣という意味をもつ。



◆人口 世界第4位

インドネシアの人口は約2億4000万人。世界第4位である。人口分布は不均等で、総面積のわずか7%にあたるジャワ島に約1億2000万人が住んでいる。世界の島の中で、ジャワ島は世界第1位の人口を有する島である。ジャワ島の人口密度は980人/km²。日本の本州450人/km²と比べて高い。首都ジャカルタは、東京ー横浜に次ぐ世界第2位の都市的地域であり、人口は2200万人である。



ジャワ人

ババア人

◆多様性 民族・言語 300

インドネシアの公用語は、マレー語を母体としたインドネシア語であり、1928年に国語とされた。子どもたちは、小学校入学後にインドネシア語を学ぶことが多い。インドネシアには300もの民族があり、それぞれが言語をもっている。驚くことに、これらの言語は方言とは違い、文字・単語・語順・文法などが異なっているのである。そして、独自の文化や生活習慣をもっていることにも驚かされる。主な民族は、ジャワ島中部・東部のジャワ人、ジャワ島西部のスンダ人、マドゥラ島のマドゥラ人、スラウェシ島のトラジャ人、スマトラ島北部のアチェ人、スマトラ島中部のバタック人、ミナンカバウ人、バリ島のバリ人などである。



バリ人

現在、インドネシアの経済を動かしているのは華人であるが、人口は全体の5%に過ぎない。



- ・スラウェシ島トラジャ人の伝統家屋・トンコナン (右)
- ・スマトラ島ミナンカバウ人の伝統家屋・ルマ・ガダン (左)

◆標語「多様性の中の統一」

国章ガルーダには、民族も言語も文化も多様なインドネシアでの課題を抱えながらも、統一を図ろうとする意味が込められている。盾の5つの部分は、パンチャシラ5原則を示す。

黒は自然、星はイスラム教・ヒンドゥー教・仏教・キリスト教、また、社会主義を示す。第1原則「唯一神への信仰」を示す。

ジャワ島野牛バンテンの頭。第4原則「合議制と代議制における英知に導かれた民主主義」を表す。

熱帯樹木の菩提樹。多くの文化的根を持った人々が1つの国にまとまる。第3原則「インドネシアの統一」を意味する。

稲穂と綿花。第5原則「全インドネシア国民に対する社会的公正」を表す。米と綿花や社会の持続と生計の象徴。

鎖は人間の世代間のつながりを示し、四角い輪は男性・丸い輪は女性を意味する。第2原則「公正で文化的な人道主義」を示す。



「ピンネカ・トゥンガル・イカ」＝「多様性の中の統一」

◆ムスリム（イスラム教徒）世界一

バリ島では、ヒンズーのバリ教，スラウェシのトラジャ地区ではキリスト教などが信仰されているが、国民の約90%がムスリム（イスラム教徒）である。イスラム教徒の数で言うと、世界一である。しかし、イスラム教を国教としているわけではない。祝日を見てみるとそのことは一目瞭然である。

1月	1日	西暦新年
2月	3日	中国正月（中国暦 2562 年新年）
2月	15日	ムハンマド生誕祭
3月	5日	ニュピ（サカ暦 1933 年新年）
4月	22日	聖金曜日（キリスト受難祭）
5月	17日	ワイサック（仏教大祭 仏暦 2555 年）
6月	2日	キリスト昇天祭
6月	29日	ムハンマド昇天祭
8月	1日	ラマダン（断食月）の始まり
8月	17日	インドネシア共和国独立記念日
8月	30日	断食明け大祭
8月	31日	断食明け大祭
11月	6日	犠牲祭
11月	27日	イスラム暦 1433 年新年
12月	25日	クリスマス（キリスト生誕祭）

年に一度、断食（ブアサ）を行う約1ヶ月間がある。この間、太陽が出ている時間帯は、飲食や喫煙ができない。レストランや娯楽施設の営業も、ブアサ期間中は自粛されることが多い。

インドネシア式のトイレにはトイレトーパーがない。貯水槽にひしゃくが置いてある。右手でひしゃくを持って水をすくい、左手を使って洗うのである。左手の握手や左手で物を渡すことはタブーとされる。食事も右手だけで行う。

赴任した翌朝早速驚いたのがアザーンである。早朝4時に15分間程度、お祈りを呼びかける放送が街中に響き渡るのである。まだ寝静まり帰った街に大音量で流れることには衝撃を受けた。

街のあちこちにモスクがあり、お祈りの時間になるとムスリムたちがアラーの神に祈りを捧げる。仕事中でも、お祈りが優先される。



東ジャワ最大のモスク アル・アクバル

◆年較差2度の気候

インドネシアには四季がない。一年中真夏である。熱帯雨林気候区、熱帯サバンナ気候区に属する。

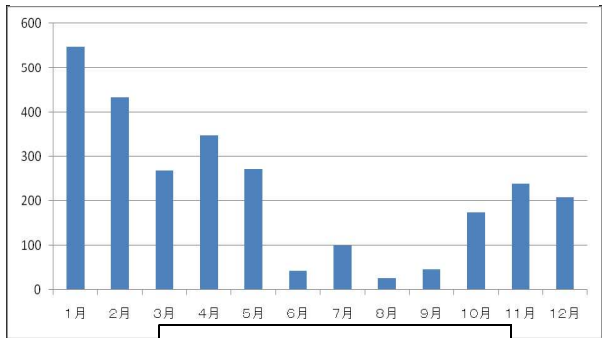
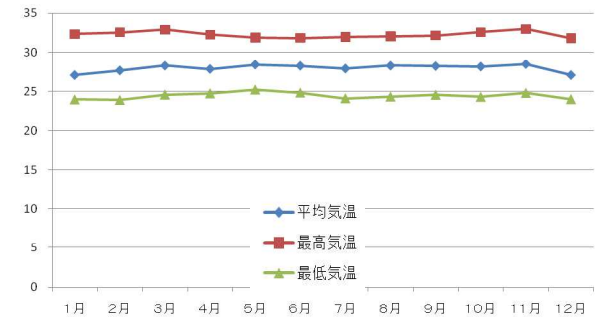
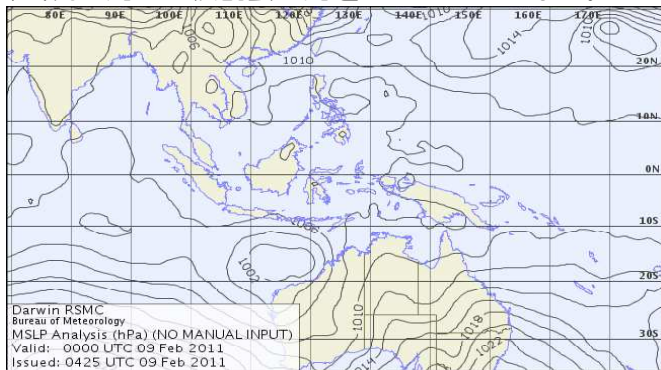
スラバヤの場合、乾期は、午後34~36℃まで上がるが、早朝は25度以下になることもある。8月頃は東京よりも涼しく、オーストラリア大陸からやってくる乾いた空気団がこの天候をもたらす。

雨期は、午前中は晴れやうす曇りの時が多いが、夕方からスコールとなり雷が鳴る。この時期、一日の気温変化はなく、湿度が高いため蒸し暑く感じる。

雨の日に怖いのが雷である。光ってから音が鳴り出すまでたったの数秒ということも多い。光と同時に「バン！」と鳴ることもある。雨が降っていても雷だけが一発鳴ることもある。

乾季と雨季の変わり目は、早朝や昼間にも雨が降ることがあり、朝から夕方まで雨が降り続けるとすぐに洪水が起きる。昨年、洪水が5回起きている。

気圧配置図を見ると、インドネシア付近は等圧線の間隔が広い。低気圧に伴う前線が発達することはない。雨をもたらす理由は湿った気団で、しばらく晴天が続くと大雨が降る。温度上昇によって上昇気流が発生し積乱雲が発達しスコールとなる。



2010年 スラバヤの気温と降水量



パンジール 道路はすぐに洪水に

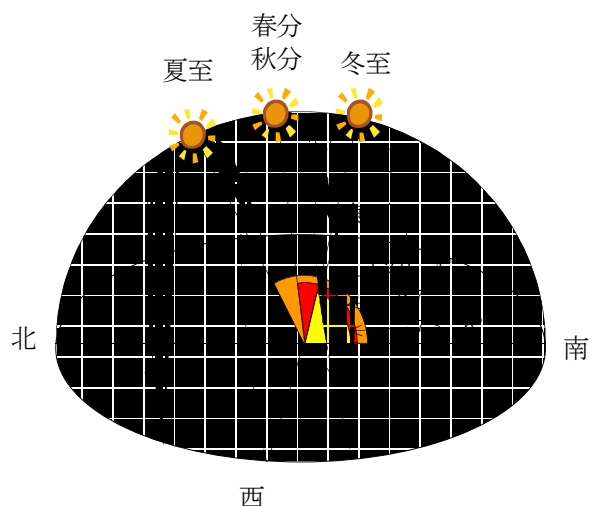
◆太陽が真上に

南緯7度に位置するスラバヤでは、見かけ上の太陽の動きは、日本での動きとは異なる。東から昇り西へ沈む現象は共通だが、赤道に位置するスラバヤでは南中高度が高い。年に2回は、南中高度が90度、つまり、頭上の真上に来ることがある。10月中旬と3月上旬である。

日本で日の出を見ると太陽は右上へ昇っていくが、スラバヤでは真上へ登っていく。これは、その他の天体も同様である。そして、西の空を見た場合は、真下へ沈んでいく。



太陽が真上に！ 影が真下に！



西

◆教育事情

インドネシアの学校教育は6-3-3-4制である。義務教育については、1993年までは小学校だけの6年間であったが、1994年から中学校も含む9年間へと延長された。

就学率は1970年小学校が70%、中学校が17%と低く、1995年には小学校が91.5%、中学校が58.4%、2005年には小学校が93.2%、中学校が65.2%まで上がっている。しかし、教育の質が問題となっている。



好きな時間に好きな場所で食事



小学校3年生の普通教室の様子

その原因は、学校施設や教員配置などの学習環境が十分でないためと言われている。特に、1994年以降の急速な中学校義務教育化の流れの中、教員養成が追いつかず、適切な資格や経験のない者が教壇に立っていることがその原因の一つとして考えられている。また、講義伝達式の一斉型授業が広く行われていることも原因の一つとしてあげられる。

◆交通事情

インドネシアの交通事情は劣悪である。車両数に対して道路が圧倒的に少ないため、至る所で渋滞が起きてしまう。渋滞してしまうと迂回すればよいと考えるが、引き返してうまくいった試しがない。また、舗装道路には穴があいているのがあたり前で、狭い道はポリシ・ティドル（警察が寝る）と呼ばれる出っ張りがあり、減速しなければならない。

一番衝撃を受けたのは、庶民の足であるバイクの多さである。バイクは一家に一台の貴重な移動手段であり、4~5人乗りも当たり前。ヘルメットをかぶらないと警察に注意されるようだが、大勢で乗っても見逃してくれるようだ。

庶民の乗り物にベチャとベモがある。ベチャは無公害の人力自転車で、前に2人ほどが乗れる座席がついている。ベモは少し長距離を移動する時の乗り合い小型バスで、行き先が表示されており、料金も安い。これを乗り継ぐと街中どこにでも行けるほど台数が多い。



この写真は空いている方



バサール近くで待つベチャ引きの人



ベチャでアクアを運ぶ



ベモが集まるステーション

◆ゴミ問題

日本ではポイ捨てをする人が見られないが、インドネシアでは、食べ物のカスやビニール袋・タバコの吸殻などを道端や水路に捨てる人が多いようだ。庭先でゴミを燃やしている光景も毎日見かけた。ゴミを捨てることに対する罪悪感がないのか、環境教育が足りないせいなのか、結局のところよくわからなかった。

スラバヤの空の色は鉛色だった。ものすごい数のバイクに加え、日本で車検切れになった昭和時代の大型トラックが現役なので、排気ガスによる大気汚染がひどい。途上国の環境問題がいかに深刻な問題であるかを痛感した。解決できることを強く望む。



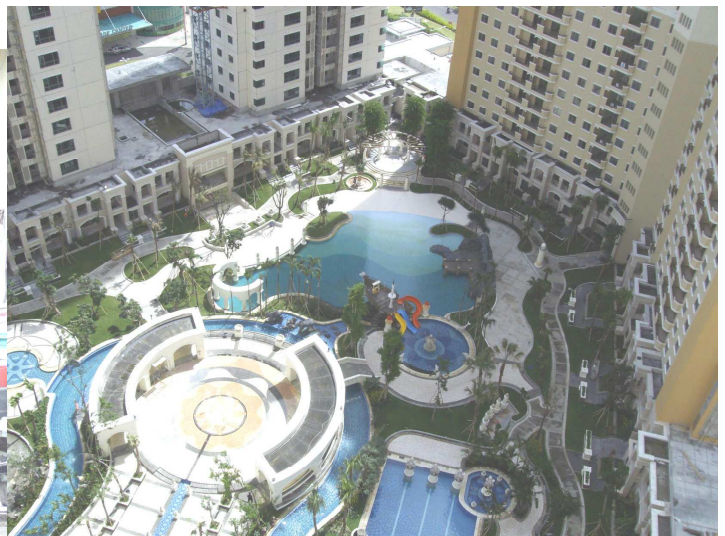
ゴミ捨て場？川？

◆貧富の差

高級住宅街や高層マンションの路地裏に目を向けるとスラム街があり、この国の課題である貧富の差を目の当たりにする。鶏を飼い、レンガがむき出しの壁に洗濯物が干してあり、生活用品もおいてある。勿論エアコンはない。小さなテレビと質素な家具があるだけである。一方で、都市ならではの高層マンションや大きなプール付きの高級住宅が軒を連ねる場所があり、同じ街とは思えないほどの差を感じた。



車道から小道へ入るとこのような光景に



高級マンションのプール施設



トタン屋根の家も多い



毎日見かけたストリートチルドレン



ヨーロッパスタイルの高級住宅

2. 日本とインドネシアの結びつき

インドネシアには、ジョヨボヨの伝説「北から来た黄色い人々が白い悪魔を撃ち破り短い間だけこの地にとどまり、やがて北へ引き揚げる。そのあとに平和なインドネシア国が建設される。」という言い伝えがあった。これは、まさに太平洋戦争で北から来た黄色い人の日本人がオランダを撃ち破り、日本の敗戦後オランダが再支配しようとした際に残留の日本軍が共に戦って独立を勝ちとったことを意味する。このことから、日本を崇拝する心がインドネシア人にはあるらしい。

現在、日本とインドネシアは、貿易の面でも深く関わりがあり、インドネシアは日本にとって重要なエネルギー供給国である。エネルギー輸入に占める割合は、液化天然ガスが18%（第3位）、石炭が18%（第2位）である。2010年のインドネシアの対日輸出は2兆4,629億円、対日輸入は1兆3,935億円である。

◆インドネシアからの主な輸入品

石油・液化天然ガス、石炭、鉱物資源、エビ、パルプ、繊維・繊維製品、一般機械、電気機器等

◆インドネシアへの主な輸出品

一般機械及び部品、プラスチック等化学製品、鉄鋼、電気機器、電子部品、輸送機械及び自動車部品。

インドネシアにおける日系企業は約1,300社超に上り、日系企業によるインドネシア人雇用者の数は約32万人と言われている。

◆スラバヤ近郊の主な日系企業

- ・味の素（調味料・ジュースなど）
- ・大塚製薬（ポカリスエットなど）
- ・YAMAHA（ピアノ・クラリネットなど）
- ・ANEKA・TUNA（シーチキンなど）
- ・Panasonic（LED電球・蛍光電球など）
- ・住友林業（住宅用建材など）
- ・エスケー食品（COOP用冷凍エビフライなど）

インドネシアにおける在留邦人数は1万人以上、在日インドネシア人は25,000人

日本でも使われるインドネシア語

オランウータン 「オラン」＝「人」 「ウータン」＝「森」

ウルトラマン・ティガ 「ティガ」＝「3」という意味

ジャラン 「ジャラン」＝「歩く」 「ジャラン・ジャラン」＝「散歩する」

チャンプル（混ぜる） まさにその通り混ぜるという意味



首都 ジャカルタ中心部



ANEKA・TUNAで働くインドネシア人



Panasonic LED電球の組み立て

3. スラバヤ日本人学校に関して

◆スラバヤについて

スラバヤ市は、ジャワ島東部に位置し、インドネシア第2の都市で東ジャワ州の州都である。第2次世界大戦で日本軍と連合軍が戦った「スラバヤ沖海戦」は有名で、これにより日本軍の上陸・占領が進むようになったと言われている。

ジャワ島第2のブランタス川の支流カリマス川が市の中央を蛇行しながら貫き、貿易商業港「タンジュンペラ」に至っている。この港はオランダ植民地時代から商業港として栄え、インドネシア最大の軍港でもある。

南へ2時間ほど行くと、プロモ山など2000m級の高い山がそびえ、その裾野には、オランダ植民地時代に避暑地として栄えた街マランなどがある。



◆沿革史

本校の前身のスラバヤ日本国民学校（小学校）は、インドネシアで初めての日本人学校として1925年（大正14年）に誕生した。第2次世界大戦のため、1941年（昭和16年）に閉校となったが、「スラバヤに日本人学校を」という強い願いのもと、1976年9月に保護者が土曜日に教えるスラバヤ日本語補習校が開校された。その後、日本政府とインドネシア共和国政府に認可され、1979年にスラバヤ日本人学校は開校した。

その後、移転及び校舎新築を2度重ね、現在のクティンタン校舎は1995年に完成して以来、16年目を迎える。



現在の校舎の正面玄関

◆位置づけ

1. 日本政府から在外教育施設として認定された初等教育・中等教育学校である。
2. スラバヤ日本人学校維持会によって設立・維持されている私立学校で、入学金、授業料、施設使用料、企業負担金、日本政府の援助によって運営されている。
3. 日本国籍を有する者または日本人学校維持会が入学を認めた者（東部ジャワジャパンプラブの会員子女）が入学できる。

◆校舎及び植物園について

鉄筋コンクリート2階建ての校舎に、小1から中3までの教室、理科室・家庭科室・音楽室・図工室・技術室・コンピュータ室・多目的室・会議室・教育相談室・体育館があり、幼稚部も併設されている。運動場は全面天然の芝で、昼休みや放課後は児童生徒が走り回っている。校舎敷地の周りは全て高いフェンスや柵で囲まれており、外部から侵入できないようになっている。校庭には、バナナ・マンゴー・スターフルーツ・ジャックフルーツ・ココナッツなど、熱帯ならではの果物が植樹されており、総合学習や理科などでも教材として活用できる。



ジャックフルーツがたくさん

◆児童生徒数

小学部							中学部				全校
1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計	計
7	12	7	6	7	5	44	7	3	6	16	60

◆教育目標



◆児童生徒の実態とめざす児童生徒像

父親が日系企業に勤める関係で、3～5年間で転校していく子が多い。中には、母親がインドネシア人で、幼稚園の入園から中学部の卒業まで10年以上SJSで過ごす子もいる。

国際結婚家庭は、約5割を占めている。そこで、課題となっているのだが、日本語での思考力、語彙力や読解力不足である。個人差はあるが、現に、入学以前、日本語をほとんど話せずに入学してくる子もあり、日本語による学校生活に適応するまで時間を要する場合がある。

ス	<p>Sahabat Yang Berharga (仲間を大切にする子)【徳育】</p> <p>○礼儀正しく、思いやりと感動する心をもつ子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他の“よさ”を認め合い、学年の枠を越えて助け合い行動する子 ・正しい言葉遣いができ、誰にでも気持ち良く挨拶する子 ・進んでひと・もの・ことに関わり社会性や感受性が豊かな子
ラ	<p>Rajin Belajar (一生懸命学ぶ子)【智育】</p> <p>○進んで学び方を身につけ、友と励まし合って学習する子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容と学びの基礎、基本を確実に身につけた子 ・自ら課題をつかみ、進んで解決しようとする子 ・自分なりの確かな考えをもち豊かに表現する子
バ	<p>Berbadan Sehat (健康で元気な子)【体育】</p> <p>○心身の健康づくりに自ら取り組み、最後までやりぬく子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康に関心を持ち、自ら健康づくりに努める子 ・清掃や当番の仕事に励み、最後まで責任をもってやり遂げる子 ・よりよい学校生活に向けて共に励まし合い、課題を改善する子
ヤ	<p>Yang Selalu Rukun Dengan Sesama (誰とでも仲良くできる子)【国際理解・共育】</p> <p>○お互いを認め合い、誰とでも仲良くできる子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアの文化に関心を持ち意欲的に異文化験にチャレンジできる子 ・他国(他者)理解と自国(自己)理解から国際(人)理解へと高まる子 ・社会的感受性と同質的理解力に支えられた公正な態度を養う子

◆一日の生活

ノーチャイムで一日を過ごす。各自が時間を意識できるよう日課表が各教室に掲示してある。

①登校

子どもたちは、朝の7時から7時30分に各家庭の自家用車で登校する。スクールバスによる送迎はない。予測できない渋滞の影響で登下校に30～40分はかかる場合が多い。

②昼食

昼食は、弁当を持参し、各教室で先生と児童生徒と一緒に昼食をとっている。水道水は飲めないの各自が大きめの水筒を持参している。昼食後は歯磨きを行う。歯磨き用の水はアクアという販売水を使っている。

③清掃

清掃は、一日を通して大勢のスタッフ（業務吏員）が行ってくれているが、児童生徒も自らの手で全校一斉に清掃活動を行っている。普段は自分が使っている教室のみを行い、週に一度だけ特別教室の清掃を行っている。各学年の児童生徒が縦割り班で協力している。

◆教育の特色

■基礎学力の定着をめざして

基礎学力の定着を図るための取り組みとして、小学部は10分間、中学部は20分間、毎朝学習を行っている。小学部では100マス計算などで集中力を磨き、中学部は国語・数学・英語の復習をしている。

前述の通り、本校の実態として語彙力を広げ読解力を付けて行くことが課題としてあげられる。昨年度から「1006の漢字も一字から」の取り組みを始めた。個人のペースで毎日学習を進め、日本語独特の同音異義語・音訓・熟語・ことわざなどの使い方など定着をめざしている。

■英会話

週1～2時間「英会話」を行っている。小学校高学年の「外国語活動」も加味しながら、ALTが授業を進めている。小学部中学年以上は、子どもの実態に合ったクラスをつくって学習を進めている。

■インドネシア語会話

毎週金曜日には「インドネシア語会話」を行い、小学部中学年以上は、子どもの実態にあったクラスで学習を進めている。

■スラバヤタイム

総合的な学習の時間では、隔週水曜日の午後に「スラバヤタイム」の時間を設定し、スラバヤやインドネシアに関わることについて追究学習を進めている。テーマとしては、スラバヤの歴史・マチャパヒト王国、楽器ガムラン、バリ舞踊、食生活に関して、建造物に関して、インドネシアの果物や植物、インドネシアの運送や郵送、日イのお米など、多岐にわたっている。児童生徒の興味関心にできるだけ対応するよう工夫している。

内容	小学部	中学部
朝の会	7:30～7:40	7:30～7:40
朝の学習	7:40～7:50	7:40～7:45
準備	7:50～7:55	
1校時	7:55～8:40	7:45～8:35
準備	8:40～8:50	8:35～8:45
2校時	8:50～9:35	8:45～9:35
準備	9:35～9:40	9:35～9:40
業間	9:40～9:55	
準備	9:55～10:00	9:55～10:00
3校時	10:00～10:45	10:00～10:50
準備	10:45～10:55	10:50～11:00
4校時	10:55～11:40	11:00～11:50
準備	11:40～11:45	
昼食・休憩	11:45～12:35	11:50～12:35
準備	12:35～12:40	
掃除	12:40～12:55	
準備	12:55～13:05	12:55～13:00
5校時	13:05～13:50	13:00～13:50
準備	13:50～14:00	13:50～14:00
6校時	14:00～14:45	14:00～14:50
準備	14:45～14:50	
帰りの会	14:50～15:00	14:50～15:00
7校時		15:00～15:50
最終下校時間	16:00(水曜日のみ15:00or15:30)	



インドネシア語会話



ガムランの演奏

■体力づくり

一年中真夏の中では、継続的な体力づくりは欠かせない。スラバヤタイムのない水曜日は水泳授業を行い、子どもたち一人ひとりがめあてをもって取り組むことができるよう細かく級を設けて指導している。検定も行っている。

また、週一回、「業間運動」の時間を設け、持久走、なわとび、一輪車、バレーボール（中学部）などで汗を流している。

昨年度から土曜日にも希望者を募って水泳教室が開かれた。



水泳教室

■JC運動会

大きな行事の一つであるJC運動会。例年、恒例の種目に加え、全校児童生徒の心を一つにして「マスゲーム」や「応援合戦」に取り組み、学年の壁を越えて協力し合うすばらしさを味わうなど大きな成果をあげている。また、交流校の児童生徒を招待し、国際チームでのリレーなどを行っている。

運動会の主催はジャパンプラブ。大勢の方々に運動会を盛り上げてくれている。



交流校の生徒とムカデ競争

■国際文化交流会

毎年、小学部低・中・高学年、中学部、交流校が舞台発表を行い、文化の交流を図っている。昨年度は中学部でライオンキングの舞台に挑戦した。交流校の生徒達と3度にわたる合同練習の中で、音楽や踊りを通して交流を深めることができた。



交流校の生徒と一緒にLKハクナマタタ

■全校遠足

スクールバスに乗ってスラバヤ近郊へ出かけ、オリエンテーリングを行っている。小学部1年から中学部3年までの全校児童生徒が一緒の班で行動する。H20年度は、タマンサファリ動物園、H21年度はブルウォダティ植物園、H22年度はラモンガン遊園地へ行った。

■校外スケッチ実習

東ジャワの文化遺産やインドネシア・スラバヤならではの建築物などをスケッチすることで、文化や歴史への理解を深めている。見学先では、その建造物の造られた背景などを学習した上で、スケッチを行っている。



小学部中学年の校外スケッチ

■交流校招待・交流校訪問

小学部はウネサ小学校と、中学部はSMPN22と交流を行っている。運動会や国際文化交流会の他に、6月には本校に交流校の児童生徒を招待しての活動、月には交流校を訪問している。それぞれの学年での交流活動を通して、言葉の壁を超えて互いの文化などを理解し合ったり、ゲームなどを通して心の交流を図っている。

■企業探検・企業訪問

小学3年生以上ではスラバヤ近郊にある日本企業などを訪問し、社会人としての生き方やはたらくことの喜びなどを学んでいる。



小学部4年 アネカツナ工場見学

4. インドネシアで暮らして

◆多様性「マチャマチャ！（いろいろ）」

これほど多様性を感じる国はないかもしれない。スラバヤに暮らしていても感じる事ができた。街並み、数多くの乗り物、ちょっと脇道にそれた時の家並み、そして、人々の様子、目に入ってくる物全てがマチャンマチャン（いろいろ）だった。

多様性を尊重することの大切さは、言葉でわかってはいても、実際にはとても難しいことであると考えさせられる日々だった。

◆ゆったりとした時間「キラキラ！（だいたい）」

日本人は、相手と約束した時間を守ることができなければ例え数分であろうとも連絡を入れたり、謝ったりする。しかし、ここではとてもゆったりと時間が流れてため、約束した時間が10分過ぎたり、逆に30分も早かったりするのめずらしくない。人を待たせること、人を待つことに抵抗がないのである。このゆったりとした時間の流れは、今まで私の中には存在しないものだった。

◆幸せとは何か？

インドネシア人の幸福度は90%以上であり、日本の80%を上回る。貧富の差が激しく、環境面でも医療面でも決して満たされているとは言えない。勿論、日本でのくらしのように安全で快適なくらしができていないわけでもない。家族を大切に、イスラム教を信じ、一年中温暖な中で陽気に暮らす人たち。その日を生きていくのがやっとなという人たちがさ多い。こういった人たちを垣間見ると、幸せとは何なのだろう？とずいぶん考えさせられた。

◆日本での「当たり前」のありがたさを痛感

長い歴史を経てつくりあげてきた日本の当たり前を痛感した。「信頼」「保証」「安全」「便利」などである。蛇口をひねると飲料水が出る。最先端の医療が充実していること。自治体がそれぞれ機能していること。道路や交通網が整備されていること。自然環境が守られていること。品物に消費期限・賞味期限などが明記されていること。警察が信用できるなどなど、例を挙げればきりがなし。こういったことが、個人でお金をかけなくても社会全体で保証されている。日本での当たり前はとてもありがたいことだと痛感した。

◆明るい笑顔の子どもたち

日本の子どもたちとは全く違う環境の中ではあるが、インドネシアの子どもの表情はとても明るく、また純粋で素直な印象を受けた。特に中学生の生徒達には、そういった印象を強く受けた。

貧富の差・環境問題・医療や教育の充実・・・この国の課題は多いが、この笑顔を受け継いで将来のインドネシアをさらに明るい国にしてほしい。

5. スラバヤ日本人学校で勤務して

◆日本各地から派遣されている先生方は、しっかり子どもに向き合い、それぞれが持っている専門性や持ち味を存分に発揮していた。その熱意や仕事ぶりに多くの刺激を受ける毎日だった。各都道府県によって解釈の仕方が違うこともある。しかし、基本は「子どものために」の点で一致し、活気のある学校を創ることができていたと思う。自分もその一員として、小学校担任、中学部副担任、中学理科や音楽の指導に携わる中、大変充実した日々を送ることができたことに感謝したい。保護者も温かく見守ってくださり、とても協力的だった。

◆3年間、病気やけがになることなく、また、危険な思いをすることもなく過ごすことができた。入国や在国の手続きや生活上での契約など、事務長さんには大変お世話になった。また、スタッフさんをはじめ、私の周りにいた全ての人に感謝したい。健康で安全なくらしがベースになれば、充実した勤務生活はつくることができなかったと思う。



スラバヤ日本人学校のスタッフさん